



別添4

播磨科学公園都市圏域定住自立圏 の取組について

～「第2回播磨科学公園都市の新たなあり方検討協議会」資料～

たつの市 企画財政部 企画課

定住自立圏構想について

■ 定住自立圏形成の目的

集約と**ネットワーク**の考え方にに基づき、中心市において圏域全体の暮らしに必要な都市機能を集約的に整備するとともに、近隣市町村において必要な生活機能を確保し、農林水産業の振興や豊かな自然環境の保全等を図るなど、互いに**連携・協力**することにより、圏域全体の活性化を目的としている。

■ 圏域に必要な役割

1 生活機能の強化

（医療・子育て支援体制等の充実、産業振興、防災体制の強化 等）

2 結びつきやネットワークの強化

（地域公共交通ネットワークの充実、移住促進、道路等交通インフラの整備 等）

3 圏域マネジメント能力の強化

（合同研修の実施、職員の人事交流、外部専門家の招へい 等）



◆ 目指すべき将来像

社会の動向や圏域の環境変化を追い風に、各市町の主体性を尊重しつつ、圏域思考に基づく相互連携を一層強化し、持続可能な圏域形成を進めます。

第2期共生ビジョンでは、第1期共生ビジョンを深化させつつ、各市町が実施する地方創生事業との相乗効果を発揮し、圏域住民が安全・安心かつ快適に住み続けたいと実感できる、

「西播磨の未来を拓く連携と共生のまちづくり」

を目指します。

これまでの経緯

平成27年5月～

近隣市町との定住自立圏構想を開始

連携市町とのつながり

播磨科学公園都市を中心とする宍粟市、上郡町、佐用町とワーキンググループを構成

たつの市・上郡町・佐用町は、「播磨高原広域事務組合」を作り、「播磨科学公園都市」のPRや上下水道事業、組合立の小中学校の運営などに取り組みつながりがあった。また、宍粟市南部はたつの市が生活圈となる住民がおり、古くからも揖保川を利用し、高瀬舟による交流が行われていた。

形成協定までに開催したワーキンググループ会議は、全10回 その後も圏域市町と連絡を密にするため、適宜開催

平成27年9月25日

定住自立圏構想中心市宣言式

平成27年12月～

連携事業各市町事務担当者における協議を開始

平成28年3月

定住自立圏形成協定の締結に関する議案を各市町の議会に上程

※各市町の議決日

たつの市：平成28年3月24日

宍粟市：平成28年3月25日

上郡町：平成28年3月11日

佐用町：平成28年3月14日



平成28年3月30日

定住自立圏形成協定調印式

平成28年6月23日

第1回播磨科学公園都市圏域定住自立圏共生ビジョン懇談会を開催

平成28年9月27日

第1期播磨科学公園都市圏域定住自立圏共生ビジョン（平成28年度～令和2年度）策定

令和3年3月30日

第2期播磨科学公園都市圏域定住自立圏共生ビジョン（令和3年度～令和7年度）策定

第3期共生ビジョンの策定に向けて

ビジョン体系図

A 生活機能の強化に係る政策分野

医療

医療圏域体制の充実

福祉

高齢者・障害者支援及び認知症対策体制の充実

子育て支援体制の充実

教育

学校教育・社会教育の充実

産業振興

農林畜産業の振興

圏域観光の推進

雇用・企業等誘致の推進

地産地消の推進

環境

環境への負荷の少ない持続可能な社会の構築

消防防災

圏域内防災体制の強化

B 結びつきやネットワークの強化

地域公共交通

地域公共交通ネットワークの充実

道路等交通インフラ

効率的な交通機能のネットワークの形成

交流・定住促進

地域資源の活用による交流・定住促進

C 圏域マネジメント能力の強化

人材育成

地域をけん引する人材の育成及び人事交流の実施



基本目標(将来像)

～ 西播磨の未来を拓く連携と共生のまちづくりを目指して～

圏域人口 (国勢調査)		実績値 (平成27年) 147,926 人	実績値 (令和2年) 138,877 人	目標値 (令和7年) 133,000 人
播磨科学公園 都市人口	昼間人口	(平成27年) 5,928 人	(令和2年) 5,818 人	(令和6年実績) 5,838 人
	夜間人口	(平成27年) 1,410 人	(令和2年) 1,262 人	(令和6年実績) 1,184 人

播磨科学公園都市圏域定住自立圏の取組について

観光客誘致対策事業

- 交流人口の増加、圏域経済を活性化すべく、広域観光パンフレットの作成や観光ツアーにより圏域内外への情報発信及びプロモーション強化を図る。

【たつの市・佐用町】

～発酵の歴史と和紙の技術を学ぶ体験ツアー（3/16）～

※SNS（Instagram）にて情報発信力の高い方（インフルエンサー）をバスツアーに招待し効率よく魅力を発信し、波及効果を高める。

【全市町】

～ひょうごフィールドパビリオン体験型ツアー（3/8及び3/15）～

※2日間に分け、圏域内のフィールドパビリオンを体験するツアーを開催



【令和7年度の取組】～持続可能な観光地域づくりと観光誘客事業の展開～ 事業費 11,600千円

1 周遊型観光事業【謎解き宝探しゲーム】

圏域のフィールドパビリオンや歴史遺産、観光資源を舞台に地域を歩き、住民と触れ合うなかで、地域愛を深め、地域の宝を発見する謎解きイベントを開催

圏域内の小中学生へも参加を促すことで、魅力の再発見、シビックプライドの醸成に寄与する。
地域を周遊することで、滞在時間を向上させ地域内での消費活動を促進し、経済効果を高める。

2 テクノ圏域フォトコンテスト

SNS等を活用したフォトコンテストを開催、2市2町の観光写真をInstagram等で募集

3 インフルエンサー招聘

SNSにて情報発信力の高い方（インフルエンサー）に圏域を周遊いただきSNS等で効果的に圏域の魅力を発信



播磨科学公園都市圏域定住自立圏の取組について

「電子図書館」の利用促進

- 図書館までの距離が遠い、移動が困難など図書館の利用が不便な方に対して、パソコンやスマートフォン、タブレット端末を使って24時間どこからでも利用できる電子書籍の貸出サービスを提供

【電子図書貸出冊数】

	実績
令和4年度	2,831冊
令和5年度	5,596冊
令和6年度 (12月末時点)	3,226冊

【所蔵タイトル数(蔵書数)】

	実績
令和4年度	2,217点
令和5年度	2,312点
令和6年度 (12月末時点)	2,390点



【令和7年度の取組】 ～圏域全中学校への利用拡大～ 事業費 832千円

- ・「GIGAスクール構想」で導入したタブレットの有効活用やデジタル教育の推進に向け、**圏域内の全中学校**を対象に利用者IDを付与(本市中学校にはR6年度に付与)
- ・一般利用者の増加に加え、中学生の利用が大幅に増加することが見込まれることから、
➡中学生向け読み放題パックの導入及び蔵書の拡充
- ・電子書籍を充実させることで、圏域全体の一般利用者の利用促進にも効果がある。

播磨科学公園都市圏域定住自立圏の取組について

地域公共交通ネットワークの充実

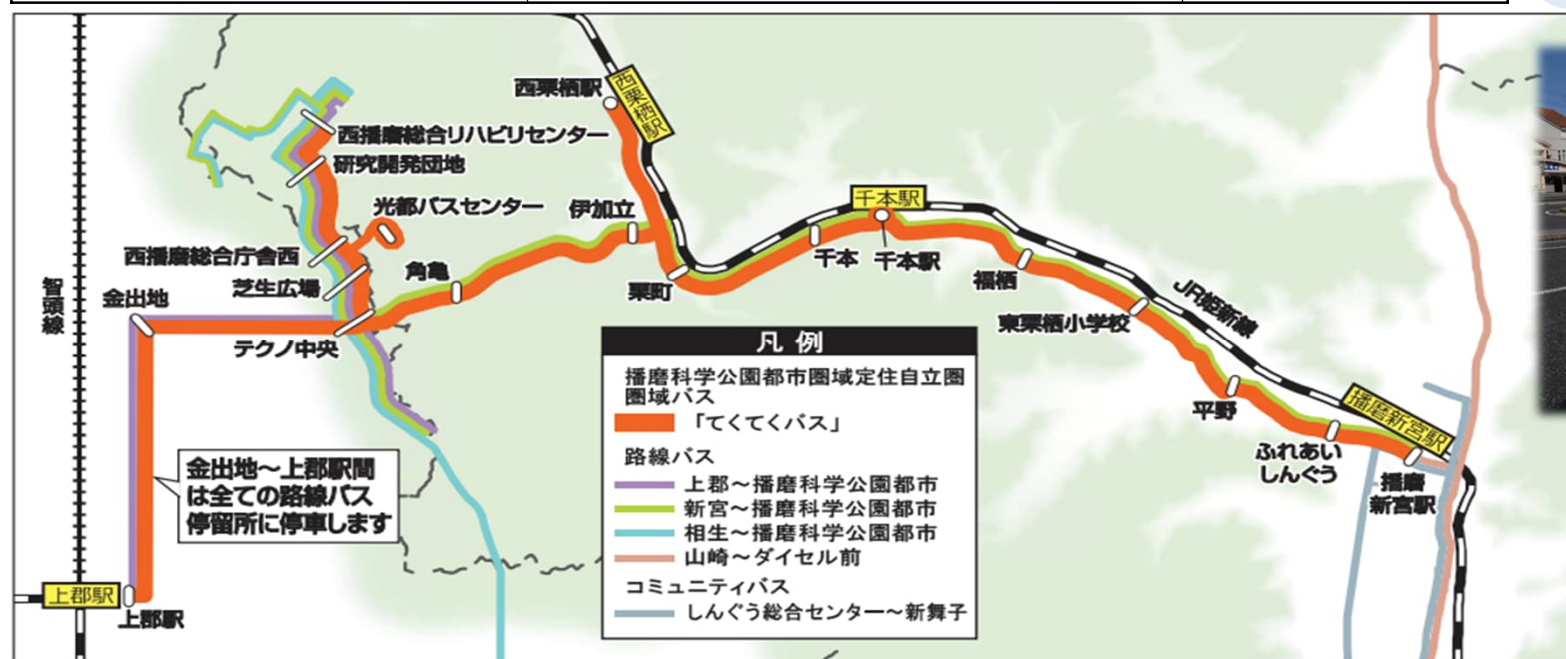
■ 圏域バス（愛称：てくてくバス）の運行

圏域の公共交通ネットワークの充実を図るため、西播磨総合リハビリテーションセンター等が所在する播磨科学公園都市を結節点とした圏域バスを運行（播磨新宮駅～播磨科学公園都市～上郡駅）

【乗車実績】

年 度	実 績	前年比
令和4年度	2,991人（10.2人／日）	+11%
令和5年度	3,547人（12.1人／日）	+18%
令和6年度（12月末）	2,462人（11.0人／日）	△14%

1日：5便運行
運行日：月曜～土曜
1乗車：200円
(小学生未満は無料)



〈バス停標識デザイン〉

播磨科学公園都市圏域定住自立圏の取組について

交流、定住促進について

■ 定住促進共同情報発信事業

圏域市町の魅力やイベント情報を積極的に情報発信することで、都市部から圏域への人の流れを創出する。

【播磨科学公園都市圏域定住自立圏ホームページ】

…圏域市町の概要、各種事業の紹介

R7.4リニューアル

【播磨科学公園都市WEBメディア「テクノ界隈」】

…都市内の企業・店舗などの紹介、イベントの告知



■ 婚活支援事業

圏域内の若者の成婚を促進するため、男女の出会いの場の創出、成婚化に向け各種施策を実施

【上郡町】◆まつり婚～浴衣で恋して夏まつり～ inギャラリーひがし蔵

令和6年7月27日(土)開催

◆～ぱくぱくbuffet PARTY～ in hanaテラス

令和7年3月15日(土)開催

【佐用町】◆Christmas 謎解き婚活in 龍野クラシックアネックス

令和6年12月1日(日)開催



播磨科学公園都市圏域定住自立圏の取組について

交流、定住促進について

■ ダイセル播磨光都サッカー場

大自然に囲まれた広大な敷地に、大小様々な規模の試合に対応可能なサッカーグラウンドを有し、年間を通し県内外から多数の利用者が訪れる。合宿や大会等での近隣市町宿泊施設の利用にも貢献している。

たつの市:国民宿舎「志んぐ荘」

佐用町:笹ヶ丘荘 など



	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度 (R7.2末まで)
利用人数	94,345人	75,399人	100,240人	103,931人	110,709人	<u>126,319人</u>

◆ HYOGO PARA FOOTBALL FESTIVAL

- ➡障がい者と健常者がサッカー、その他障がい者スポーツ、各種イベントを通じて交流し、相互理解を深める大規模イベントを開催
2市2町の魅力を発信する機会として後援し、圏域の知名度向上と交流人口の拡大を図る。

【令和7年3月8日(土) 第10回フェスティバル開催 参加者:約2千人】

